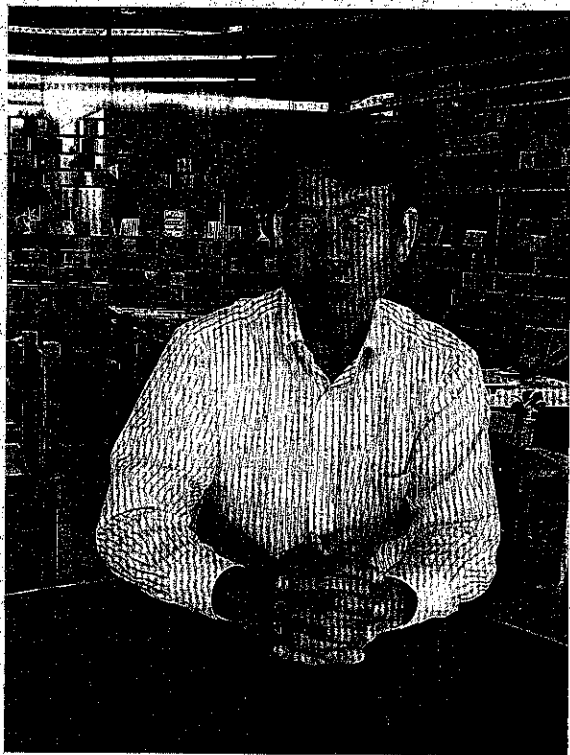


NPO法人すまいるセンター代表理事

西上孔雄さん(47) =堺市南区



にしがみ・よしお 堺市南区出身。一級建築士。家業である西上建設の3代目社長のほか、NPO法人「すまいるセンター」代表理事、「泉北ニュータウン学会」の事務局長を務め、住民や各種団体、大学、企業、行政などの人脈を生かして泉北のまちの住環境向上と生活支援に取り組む。

23年には近隣の空き店舗に、自治会からの有償ボランテニアが運営する「榎塚台レストラン」をオープン。高齢者の見守りを兼ねた配食サービスのほか、ランチの提供や居酒屋事業にも乗り出した。飲食しながら住民同士で話

(守田順一)

あああか

まちかど 人間録

「バリアフリー工事などで住民の声を聞く」と平成12年に『すまいるセンター』を設立した。そこからです。ハコよりも高齢者や子育て世代が

ニュータウン再生へ一役

安心して暮らせる環境づくりや生活支援の方が先だと思うようになった。高度成長期に全国で開発された「ニュータウン」は半世紀を経て、さまざまな歪みが生じている。堺市南区の泉北ニュータウンも少子高齢化や地域コミュニティの衰退、小売店の撤退、施設の老朽化などが課題となっている。自社ビルの一角をすまいるセンターとして開放。さまざまな団体の手を借り、健康講座の中心的作用を担うようになった。高齢化率と空き家率が区の平均を大きく上回る榎塚台地区では、国のモデル事業の指定を受け、平成22年から府営住宅の空き家7戸を見守り付き住宅に改修。23年には近隣の空き店舗に、自治会からの有償ボランテニアが運営する「榎塚台レストラン」をオープン。高齢者の見守りを兼ねた配食サービスのほか、ランチの提供や居酒屋事業にも乗り出した。飲食しながら住民同士で話

になった。

「このまちで暮らし続けたい」と願う住民たちが自分たちで維持するところの思いのすべ

高年齢化率が40%を超える高

倉台3丁地区では、障害者団

体や地元商業団体の協力で休

業中のミニスーパーを6月に

復活させたほか、ICT(情報

通信技術)を使った認知症

高齢者の見守りなども計画し

ている。

行政施策を組み合わせなが

ら住民を結びつけ、まちをよ

みがえらせる「共助と協働」

の取り組みだ。

「都心から離れたまちが消

滅しないよう手を打つには今

がぎりぎりの時期。泉北のま

ち開きと同じ年に生まれ育つ

た者として、地域全体を巻き

込みながら全国のニュータウ

ン再生のモデルをつくりあげ